

春波

はるあさ

俳句で使われる季語で、まだまだ
寒い日が多く残る季のこと。
キリツとした冷たい空気や、静寂
な雰囲気に感性が際立ち、春へと
移り変わる自然の動きを感じます。



今年は「最長寒波」が到来。丹後地域でも例年ない積雪量とのこと。葱が植っていない畠の写真ですが、雪にまみれた葱畠もあり、雪解けや晴れ間を根気よく待つことも冬の心得。

今月のことねぎ

今月、みなさまにお届けする九条ねぎが京都でどのように育ったものなのか、物語（事）を少しでも知っていただき、より美味しく召し上がっていただければと思います。

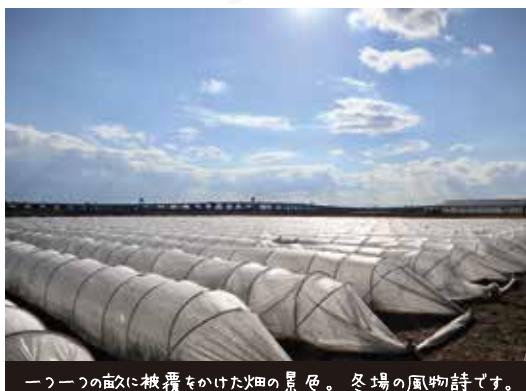
夏の努力と冬の気候と工夫で育てた冬葱たち

昨年9~10月にかけて定植した葱たち。当時植えた苗は夏の厳しい暑さの中で管理したもので、1年の中でも特に難しい時期でした。簡単ではありませんでしたが、農人たちが日々こまめ手をかけ��けたことで、良好な苗な育てることができました。

12月上旬までは、比較的温暖な日が続き順調に生育。冬の急激な冷え込み、朝霜の影響で葉が折れてしまう株も出てきましたが、収穫までの間も葉面散布などの管理を続け、寒さの中でも品質を保つ工夫を重ねて育てた冬葱です。



農人たちの畠での作業の様子、THE農業！の現場のこと」を発信



一つ一つの苗々に被覆をかけた畠の景色。冬場の風物詩です。

被覆トンネルの中で過ごす
ねぎたちを覗きました。
ちょうど良い気温で過ごして
いくれています。
いてくれています。

冬の作業、農人たちにとっての風物詩

冬のねぎ畠では、寒さから守るため、ビニールで被覆している圃場が多くあります。この被覆は、厳しい冷え込みからねぎを守るうえでは欠かせない管理方法です。ただし、収穫までの間は、被覆をかけたままにしておくわけにはいきません。天候やねぎの状態を見ながら、定期的にビニールを外したり、再び掛け直したりする作業が必要になります。雨の前には、ねぎに直接水分を行き渡らせるためにもビニールを開けています。また、被覆内は湿度が高くなりやすく、病気を防ぐための防除や栄養補給も欠かせません。冷え込みが予想される場合には、時間との勝負で作業を進めることもあります。こうした積み重ねの管理を経て大切に育てたねぎたちを、今月も皆さまにお届けしていきます。

とある日の農人日記。

朝一番は葱が凍っており、溶けるのを待ち収穫が十時スタートとなりました。積雪したあとの収穫では、掻き分けながら出来るだろうと思っていましたが、予想以上に雪が分厚くて硬く、時間をかなり要しました。（丹後・浅尾）



こと京都は
「野菜を食べよう」
プロジェクトの
サポーター企業です

私たちは、農林水産省が実施している本プロジェクトの趣旨に賛同し、九条ねぎを通じて野菜の消費拡大に取り組みます。

NO.225
2026年2月号
TEL: 075-601-0668

こと京都株式会社

KOTO GROUP
4A

